

ナショナリズム ドイツとは何か

わからなかったナチス時代のドイツ兵の父の気持ち 旧東独出身者との対話

【13】ナショナリズム ドイツとは何か／ベルリン④ 現代史凝縮の地

藤田直央 朝日新聞編集委員（日本政治、外交、安全保障）

2020年08月13日



旧東ベルリンのアレクサンダー広場にある世界時計（手前）と、テレビ塔。ともに1969年に東ドイツ建国20周年を記念して完成した。2月、ベルリン。藤田撮影（以下同じ）

【連載】ナショナリズム ドイツとは何か

米ソ冷戦の頃、壁で東西に割かれていたベルリン。旧東側の一角に、今も分断ナショナリズムの象徴がそびえ立つ。半世紀前に東ドイツが造ったテレビ塔だ。高さは東京タワーを凌ぐ368メートルで、200メートルあたりに巨大な球形の展望台を抱える。

2月中旬、私はドイツのナショナリズムを考える旅でそのそばを巡り、天を突く巨木が球を貫くかのような威容を仰いだ。

米ソの緊張が高まりキューバ危機も起きた1960年代初め、壁で突如隔てられ世界の注目を集めたベルリンの街は、資本主義と共産主義が互いに優位を誇示する「ショーウィンドー」になっていった。東ドイツ建国20周年の69年に完成し、西ベルリンを見下ろした東ベルリンのテレビ塔はその典型だ。

球形展望台がイメージしたのは人類初の人工衛星スプートニク1号。1957年にソ連が打ち上げに成功して米国に衝撃を与え、宇宙開発競争の嚆矢（こうし）となった。テレビ塔自体は、東ドイツにおけるカラーテレビ普及をはじめとする国民生活向上をアピールした。



そこから少し歩いた国立ドイツ歴史博物館の冷戦期の展示には、その建国20周年の際の東ドイツの世相がテレビ塔の話を交えて記されていた。

旧東ベルリンにあるテレビ塔。
1969年に東ドイツ建国20周年を記念して完成した



「政府からの寛大な贈り物へのお返しに、国民は国家への忠誠と愛を行動で示した。自由ドイツ青年団(FDJ)が祝賀の夜にトーチを掲げた行進のスローガンは、『私たちの愛と忠誠は、すべて社会主義の祖国のために』だった」



ベルリンの国立ドイツ歴史博物館の展示

トーチ行進という言葉に、ナチス政権の頃にヒトラーを講えたものを思い出した。ナチズムに抵抗した共産主義を国是とする東ドイツにも、似た光景があったのだ。

国民がまとまろうとする気持ちや動きとしてのナショナリズムは、東ドイツではどのように現れ、冷戦を経て1990年の再統一後はどうなったのか。ナチズム後の共産主義というテーマの手強さをわかってはいたが、ぜひ体験者に話を聞きたかった。

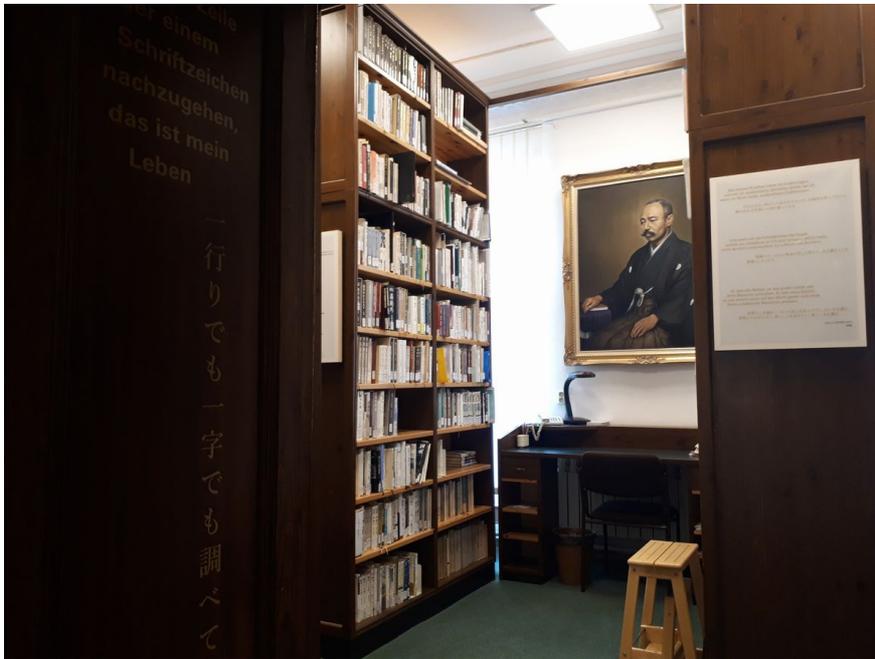
ドイツでは最近、排外主義を唱える新興右翼政党が勢いづく。ナチズムの教訓の継承を疑わせるその現象は、とりわけ旧東ドイツの地域で目立つ。それがなぜなのかがなかなか見えてこない。冷戦後

に西側が東側を吸収した今のドイツでは、西側の史観が幅を効かせすぎている――。

ドイツに入ってから、私はそんな思いを強めていた。

ベルリン滞在中、東側の話をじっくり聞ける人に、思わぬ形で会えることになった。フンボルト大学に属する森鷗外記念館の副館長、ベアーテ・ヴォンデさん(65)だ。

19世紀後半、近代国家として歩み始めていたドイツに学ぼうと、明治維新を経た日本から多くの留学生がやって来た。医学生で後に軍医・作家となる鷗外もその一人で、フンボルト大学に通った頃の下宿はいま記念館になっている。



ベルリンにあるフンボルト大学の森鷗外記念館



記念館を訪れて責任者への挨拶を希望すると、大柄で笑顔の絶えないヴォンデさんが現れた。流暢な日本語で自己紹介があり、東ドイツ出身と知る。日独の文化交流を支え続け、定年が迫り近く記念館を離れるというので、「ぜひ、インタビューを」と頼みこんだ。

ヴォンデさんは快く応じてくれた。2月14日の夕方、「一行りでも一字でも調べて行くのが自分の生命だ」という鷗外の言葉の書が掛かる記念館の一室で、子供の頃の話から始まった。

東ドイツのナショナリズムと再統一後の行方、そもそも国とは何かを考えるうえで、得がたいヴォンデさんの話を、国立ドイツ歴史博物館でたどった東ドイツ41年の歴史と重ねながら紹介したい。



旧東ドイツの頃を振り返るベアータ・ヴォンデさん



■ 分断された故郷・グーベン

「私は国境の架け橋になるのはもう慣れました」とヴォンデさんは切り出した。よくある比喻ではなく、故郷や家族のありようとして現実そのものの言葉だった。

出身はベルリンのさらに東、国境のナイセ川に臨むグーベン。ポーランド側には発音が似たグビンという街がある。第二次大戦でのドイツ敗戦によって、ポーランドとの国境が西方の「オーデル・ナイセ線」へと食い込み、かつてのグーベンはナイセ川で分断。「父はポーランド側、母はドイツ側の生まれでした」とヴォンデさんは振り返る。



[ドイツのグーベンとポーランドのグビンを一緒に紹介するサイト](#)
[ドイツのグーベンとポーランドのグビンを一緒に紹介するサイト](#)

この分断が、ドイツ降伏後にベルリン郊外であった米英ソ首脳によるポツダム会談の結果であることは、この連載の[前々回「ポツダム会談に冷戦の予兆 欧州秩序の再構築めぐり揺れた戦勝国」](#)で紹介した。焦点となったドイツ・ポーランド国境問題で、欧州へのソ連の影響力拡大を危ぶむ英国のチャーチルは、オーデル川と支流の東ナイセ川を主張。だが、より西へというソ連のスターリンの要求が通り、ドイツ側の一つの街だったグーベンを貫く西ナイセ川になったのだった。

米英仏ソに分割占領されたドイツは冷戦下の1949年、米英仏側の西ドイツ、ソ連側の東ドイツに分かれて独立。ヴォンデさんはその5年後に生まれる。ソ連を中心とする東側とともに属した東ドイツのグーベンとポーランドのグビンの間では住民は行き来できたので、子供のころ父とよくグビンの市場へ買い物に行ったという。

独ソ戦で破壊され、瓦礫（がれき）が残り、雑草が茂るグビンの街を歩きながら、父は「ここにはすてきなレストランがあった。ここはブドウ畑だった」と、かつての実家辺りの景色を懐かしんだ。その父の姿をヴォンデさんは、悲しげに思い起こした。



[ドイツのグーベンとポーランドのグビン \(Google mapより\)](#)

「当時は父の気持ちを理解するのはほとんど不可能で、ばかなこと言うなあと思いました。ひどい戦争を始めたのはドイツなんだから、ひどい扱いを受けるのはしょうがないと思った。東ドイツの教育の影響かもしれませんね」

故郷で受けた高校までの教育は、こんな様子だった。

「先生たちは、ナチスがどんなにひどいことをしたかをちゃんと勉強してほしいと言いました。モデルは、ナチス・ドイツから亡命したり、強制収容所から脱出したりした共産主義者たちで、彼らのように活躍したいと思った。ロシアの文学を学びました。映画もたくさん。ソ連軍の若い女性の部隊がドイツ軍と戦う『朝焼けは静かなれど』とかね」

「14歳になると青年団の組織に入って、一年間のプログラムでキャンプや演劇鑑賞があった。（当時東ドイツの）ブッヘンバルト強制収容所跡を見学に行つて、記録映画を見せられました。たくさんの死体が出てきて、でもいい意味でのショックでした。繰り返さないように人生を尽くそうという決意がDNAに刻まれました」



1967年春、東ドイツのロストクで港めぐりの観光船を楽しむ若者たち=朝日新聞社

ヴォンデさんこの回顧は、東ドイツでソ連の占領当時から徹底された、「非ナチス化」を土台に共産主義国家の築くという方針を物語っていた。

「非ナチス化」土台に国家建設

戦後4年間のソ連の占領中に、モスクワに逃れていた共産主義者たちが首都ベルリンに戻り、政治の実権を握る。「ナチス」とみなされた何十万もの人たちが職を奪われ、拘束された12万人以上がソ連の収容所へ送られた。ナチスの政党組織だけでなく、それを支えたとみなされた銀行や大企業の財産も没収され、独立した東ドイツの政府が継いだ。

占領下で生まれた社会主義統一党（SED）はソ連と密接な関係を保って政権を維持し、東ドイツ社会全般に様々な組織を張り巡らした。その一つがこの記事の冒頭で紹介した、建国20周年記念でトーチを掲げ行進したドイツ自由青年団だ。ヴォンデさんもかつて属した「青年団の組織」にあたる。

冷戦で分断された欧州の最前線にある東ドイツにとって、ソ連陣営に属する重要な証しが、ナチス・ドイツの敗戦で西へ食い込み領土を削られたポーランドとの国境線を認めることだった。東ドイツは独立の翌1950年に早々にこれを承

認。その後、新たな国境線や、それにともない移住を強いられた数百万人のドイツ人の苦境を語ることは、東ドイツでタブーになった。

ヴォンデさんも「戦争の話は家族の間にタブーがあり、両親の気持ちがわからなかった」と語る。

父はかつてドイツ軍兵士として戦い敗れ、ナイセ川のすぐ向こうの故郷はポーランド領になった。荒れたままの街を訪ね、往時を偲（しの）ぶその言葉に、「ばかなことを」と10代の娘が呆れてしまう、ねじれた社会がそこにあった。



ベルリンの国立ドイツ歴史博物館の展示



第二次大戦でドイツが敗れて東部の領土を失い、ポーランドとの国境が西へずれた（点線）ことを示す地図=ベルリンの国立ドイツ歴史博物館の展示より

※ 次回は8月20日に公開予定です。

- [【連載】ナショナリズム ドイツとは何か](#)
- [【昨年の連載】ナショナリズム 日本とは何か](#)

コメント [利用規約](#)

コメントを入力する(最大500文字)

コメント投稿時には、利用規約を確認・同意したものとみなさせていただきます。

0/500

名前(任意30文字以内)

規約に同意して投稿する

Powered by ユーザーローカルAIコメント

レコメンド (提供: Outbrain)